

望まない妊娠で出生した児の実態分析
－厚生省養護児童等実態調査の分析から－

柏女 靈峰（淑徳大学）
野田順子（国立公衆衛生院）
中谷茂一（駒澤大学）

1. 研究目的

養護施設、乳児院、里親等に措置・委託されている児童にあって、望まない妊娠によって出生したと考えられる児童の出生時の状況、家庭状況、施設における養育状況をあきらかにすることにより、こうした児童に対する援助のあり方を考察することを目的とする。

2. 研究方法

厚生省児童家庭局が実施した養護児童等実態調査（平成4年12月1日現在）を用いて、望まない妊娠で出生したと考えられる児童を仮定し分析した。生後早い時期に親元から離れた児童は、望まない妊娠による可能性がより高いと考えられたため、望まない妊娠の可能性の高い群の条件として、「生後1歳未満で措置された」ことを取り上げた。その条件に合うものは、養護施設入所児童26,725名中55名、乳児院入所児童2,693名中2,197名、里親委託児童2,678名中295名であった。対象となる養護施設入所児童は数が少ないため、今回の分析から除外した。乳児院入所児童、里親委託児童については以下のように養護問題発生理由により、対象群と統制群を分類した。

（1）望まない妊娠による出生の可能性が高い群（対象群）

乳児院入所児童、里親委託児童であって、養護問題発生理由が「父母の行方不明」、「両親の未婚」（乳児院入所児童のみ）、「父母の放任・怠惰」、「父母の虐待・酷使」、「棄児」、「養育拒否」であり、かつ、生後1歳未満で措置された児童を対象群とした。

乳児院入所児童では1102名（全体の50.2%）、里親委託児童では182名（全体の61.7%）であった。

（2）それ以外の群（統制群）

乳児院入所児童、里親委託児童であって、養護問題発生理由が上記以外のものであり、かつ、生後1歳未満で措置された児童を統制群とした。

乳児院入所児童では1095名（全体の49.8%）、里親委託児童では113名（全体の38.3%）であった。

（3）上記（1）（2）について、乳児院入所児童、里親委託児童ごとに単純集計及びクロス集計を行った。

（4）分析の視点

分析については、以下の視点から実施した。

①児童の出生時及び現在の心身の状況

②入所時、現在及び今後の家庭状況

3. 結果及び考察

〔結果〕

①乳児院入所児童

（ア）対象群及び統制群の基本属性を集計したものが表1-1である。

（イ）表2-1は、乳児院への入所経路を比較したものであるが、これによると、望まない妊娠による出生の可能性が高い群（以下「高い群」と言う。）の方が望まない妊娠による出生の可能性が低い群（以下「低い群」と言う。）よりも、「その他から」の割合が多い結果となっている。「その他」の内容については集計されていないが、おそらく、養護問題発生理由からみて、病院や親族宅等が考えられる。

（ウ）表3-1は、児童の出生時の状況について比較したものである。これによると、「高い群」

では「低い群」より「不明」が多く、また、「未熟児」もやや多い傾向にある。「高い群」には棄児が含まれるので不明が多いのは当然として、「未熟児」出生は一般の出生による発生率と比較してもかなり高い数値となっている。

(エ) 表4-1 は、現在の心身の状況について比較したものである。これによると両者に顕著な差は見当たらない。

(オ) 表5-1 は、入所児童の罹病傾向について比較したものである。これによると両者に顕著な差は見当たらない。

(カ) 表6-1 は入所児童の現在の家族との関係を比較したものである。これによると、「高い群」では「低い群」より「交流なし」がかなり多く、「面会」、「帰省」が少なくなっている。「高い群」の方が、家族との関係が薄いことが言える。

(キ) 表7-1 は、入所児童の今後の見通しを比較したものである。これによると、「高い群」では、「低い群」より「養子縁組または里親委託」が多く、「保護者のもとへ復帰」が少なくなっている。「高い群」の方が、家庭復帰の可能性が低く、長期の保護を必要としていることがうかがえる結果となっている。

②里親委託児童

(ア) 対象群及び統制群の基本属性を比較したものが表1-2である。

(イ) 表2-2 は、里親への委託経路を比較したものであるが、これによると、「高い群」は「低い群」より「乳児院から」の割合がやや多く、「家庭から」がやや少ない結果となっている。「高い群」の方が早期から家庭を離れている児童が多いことがわかる。

(ウ) 表3-2 は、委託児童の心身の状況を比較したものである。これによると両者に顕著な差は見当たらない。

(エ) 表4-2 は、委託児童の罹病傾向を比較したものである。これによると両者に顕著な差は見当たらない。

(オ) 表5-2 は、委託児童の指導上の留意点を比較したものである。ここでも顕著な差は見当たらない。

(カ) 表6-2 は、委託児童の現在の家族との関係を比較したものである。これによると、「高い群」の方が「低い群」より「交流なし」が多く、「面会」が少ない結果となっている。「高い群」の方が家族との関係が薄いことが言える。

(キ) 表7-2 は、委託児童の今後の見通しを比較したものである。これによると、「高い群」の方が「低い群」より「養子縁組」が多い結果となっている。「高い群」の方が家庭復帰の可能性が低いことを示している。

[考察]

以上、養護児童等実態調査の結果から「養護問題発生理由」を切り口として望まない妊娠による出生の可能性が「高い児童」及び「低い児童」を取り出しその比較を試みてみたが、その概要は以下のとおりであった。

「望まない妊娠による出生の可能性が高い児童は、①その可能性が低い児童より早期から施設及び里親に委託され、②現在の家庭との関係が薄く、③家庭復帰の可能性が低く、長期の保護を必要としているということが言える。また、児童の状況としては、未熟児出生の割合が高いが、現在の心身の状況、罹病傾向については、両者に差はみられない。」

この結果は、未熟児出生以外は主として「養護問題発生理由」の違いから生じたものと考えることができる。すなわち、今回の作業仮説として、「望まない妊娠による出生の可能性が高い児童」については、養護問題発生理由が「父母の行方不明」、「両親の未婚」（乳児院入所児童）、「父母の放任・怠惰」、「父母の虐待・酷使」、「棄児」、「養育拒否」である児童を抽出しており、その結果、それ以外の養護問題発生理由の児童より、早期から措置され、かつ家庭との関係が薄く、しかも、家庭引取りの可能性が低いという上記の結果が導き出されたものと考えることができる。

しかしながら、児童の現在の心身の状況に大きな差がないことが明らかにされたことは、望まない妊娠による出生であれ、そうでない理由による入所であれ、施設や里親等において十分なケアを受けることができれば、児童自身の心身の状況には大きな違いはないということを物語っていると言えるのではないであろうか。ただし、このことは、実家族との関係が薄く、家庭引取りの可能性が低い児童としてのケアが必要であるということをも否定するものではない。

4. 資料

1) 養護児童等実態調査（平成4年12月1日現在），厚生省家庭児童局

注：低い群=望まない妊娠による出生の可能性が低い群
 ：高い群=望まない妊娠による出生の可能性が高い群
 ：（ ） = %

表1-1 性別・調査時年齢（乳児院）

			低い群	高い群
男	1169(53.2)	0歳	243(22.2)	259(23.5)
		1歳	259(23.7)	226(20.5)
		2歳	69(6.3)	88(8.0)
		3歳	7(0.6)	10(0.9)
		4歳	4(0.4)	4(0.4)
女	1028(46.8)	0歳	218(20.0)	234(21.2)
		1歳	206(18.8)	199(18.1)
		2歳	82(7.5)	74(6.7)
		3歳	7(0.6)	7(0.6)
		4歳	0(0.0)	1(0.1)
合計	2197(100.0)	1095(100.0)	1102(100.0)	

表1-2 性別・調査時年齢（里親委託）

			低い群	高い群
男	153(51.9)	0歳	7(6.2)	21(11.5)
		1歳	11(9.7)	23(12.6)
		2-3歳	12(10.6)	25(13.7)
		4-6歳	6(5.3)	9(5.0)
		7-12歳	13(11.5)	10(5.5)
		13-15歳	5(4.4)	2(1.1)
		16-20歳	5(4.4)	4(2.2)
女	142(48.1)	0歳	8(7.1)	21(11.5)
		1歳	12(10.6)	19(10.4)
		2-3歳	6(5.3)	16(8.8)
		4-6歳	6(5.3)	9(5.0)
		7-12歳	13(11.5)	15(8.2)
		13-15歳	5(4.4)	6(3.3)
		16-20歳	4(3.6)	2(1.1)
合計	295(100.0)	113(100.0)	182(100.0)	

乳児院

表2-1 入所経路（乳児院）

	家庭 から	他の 乳児院 から	里親 家庭 から	その他 から	合計
低い群	905 (82.6)	12 (1.1)	1 (0.1)	177 (16.2)	1095 (100)
高い群	761 (69.1)	5 (0.5)	1 (0.1)	335 (30.4)	1102 (100)

表3-1 出生時の状況（乳児院）

	正常	異常 (未熟児)	異常 (その他)	不明	合計
低い群	811 (74.1)	169 (15.4)	91 (8.3)	24 (2.2)	1095 (100)
高い群	758 (68.8)	188 (17.1)	66 (6.0)	90 (8.2)	1102 (100)

表4-1 心身の状況（乳児院）

	健全	その他	合計
低い群	908 (82.9)	187 (17.1)	1095 (100)
高い群	893 (81.0)	209 (19.0)	1102 (100)

表5-1 罹病傾向（乳児院）

	ほとんど 病気を しない	その他	不詳	合計
低い群	536 (48.9)	557 (50.9)	2 (0.2)	1095 (100)
高い群	554 (50.3)	547 (49.6)	1 (0.1)	1102 (100)

表6-1 現在の家族との関係（乳児院）

	電話 手紙	面会	帰省	交流 なし	不詳	合計
低い群	69 (6.3)	684 (62.5)	161 (14.7)	181 (16.5)	0 (0.0)	1095 (100)
高い群	37 (3.4)	495 (44.9)	75 (6.8)	494 (44.8)	1 (0.1)	1102 (100)

表7-1 児童の今後の見通し（乳児院）

	保護者 のもと へ復帰	親類等 の家庭	現在の 乳児院	養護 施設へ で養育	母子寮 へ	養子縁 組また は里親 委託	その他	合計
低い群	413 (37.7)	18 (1.6)	356 (32.5)	204 (18.6)	1 (0.1)	60 (5.5)	43 (3.9)	1095 (100)
高い群	162 (14.7)	9 (0.8)	414 (37.6)	199 (18.1)	1 (0.1)	253 (23.0)	64 (5.8)	1102 (100)

里親委託

表2-2 委託経路（里親委託）

	家庭 から	乳児院 から	養護施 設から	他の児 童福祉 施設か ら	他の里 親家庭 から	その他 から	合計
低い群	57 (50.4)	43 (38.1)	2 (1.8)	0 (0.0)	2 (1.8)	9 (8.0)	113 (100)
高い群	77 (42.3)	86 (47.3)	1 (0.5)	1 (0.5)	4 (2.2)	13 (7.1)	182 (100)

表3-2 心身の状況（里親委託）

	健全	その他	合計
低い群	104 (92.0)	9 (8.0)	113 (100)
高い群	172 (94.5)	10 (5.5)	182 (100)

表4-2 罹病傾向（里親委託）

	ほとん ど病気を しない	その他	合計
低い群	94 (83.2)	19 (16.8)	113 (100)
高い群	154 (84.6)	28 (15.4)	182 (100)

表5-2 指導上留意している点（里親委託）

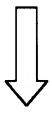
	あり	なし	合計
低い群	46 (40.7)	67 (59.3)	113 (100)
高い群	80 (44.0)	102 (56.0)	182 (100)

表6-2 現在の家族との状況（里親委託）

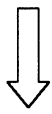
	電話・ 手紙	面会	帰省	交流なし	不詳	合計
低い群	6 (5.3)	13 (11.5)	1 (0.9)	93 (82.3)	0 (0.0)	113 (100)
高い群	5 (2.7)	1 (0.5)	3 (1.6)	172 (94.5)	1 (0.5)	182 (100)

表7-2 児童の今後の見通し（里親委託）

	保護者 のもと へ復帰	親類等 の家庭 へ	自立ま で現在 の里親 家庭で 養育	養子 縁組	現在の 里親家 庭では 養育困 難	その他	合計
低い群	12 (10.6)	1 (0.9)	39 (34.5)	57 (50.4)	1 (0.9)	3 (2.7)	113 (100)
高い群	3 (1.6)	0 (0.0)	34 (18.7)	135 (74.2)	0 (0.0)	10 (5.5)	182 (100)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1. 研究目的

養護施設、乳児院、里親等に措置・委託されている児童にあって、望まない妊娠によって出生したと考えられる児童の出生時の状況、家庭状況、施設における養育状況をあきらかにすることにより、こうした児童に対する援助のあり方を考察することを目的とする。